

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	転移性脳腫瘍（肺癌、乳癌、その他）（メラノーマは1例）	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Postoperative radiotherapy in the treatment of single metastases to the brain: A randomized trial	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ19-8	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（II）	
	Pubmed ID	9809728	
	医中誌 ID		
	雑誌名	JAMA	
	雑誌 ID		
	巻	280	
	号	17	
	ページ	1485-9	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1998 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Patchell RA	ケンタッキー大学
	その他著者 1	Tibbs PA	ケンタッキー大学
	その他著者 2	Regine WF	ケンタッキー大学
	その他著者 3	Dempsey RJ	ウイスコンシン大学
	その他著者 4	Mohiuddin M	ケンタッキー大学
	その他著者 5	Kryscio RJ	ケンタッキー大学
	その他著者 6	Markesbery WR	ケンタッキー大学
	その他著者 7	Foon KA	ケンタッキー大学
	その他著者 8	Toung B	ケンタッキー大学
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	単発性脳転移に対する外科的切除後の術後照射が、神経症状の制御や生存率の改善に寄与するか検証する		
	研究デザイン	ランダム化比較試験		
	セッティング	Southwest Oncology Group, Radiation Therapy Oncology Group, Brain Tumor Cooperative Group		
	対象者	95症例		
			経過観察群	術後照射群
		男/女	27 例/19	28/21
		年齢(中央値)	38-80 (58)	42-78 (60)
		Karnofsky スコア	70-100 (90)	70-100 (90)
		原発巣:非小細胞肺癌	28	29
		乳癌	4	5
		その他	14	15
		※悪性黒色腫は 1 例だけ		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)			
介入 (要因曝露)	経過観察群 (N = 46) : 脳転移摘出後経過観察 術後照射群 (N = 49) : 術後 28 日以内に照射開始、 全脳照射 50.4 Gy/5.5 週, 1.8 Gy X 28 回			
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分		
	1	脳内再発	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
	2	生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 (2)	
	3	死亡原因	1.主要 2.副次 3.その他 (2)	
	4	生活自立期間	1.主要 2.副次 3.その他 (2)	
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	

	<p>主な結果</p>	<p>脳内再発率は術後照射群で有意に少なかった ($p < .001$) 。 術後照射群 9/49 (18%)、経過観察群 32/46 (70%) 脳内再発までの期間は照射群で有意に長かった。 中央値 220 週 vs 26 週 全生存期間は有意差を認めなかった ($p = .39$) 。 中央生存期間 術後照射群 48 週、経過観察群 43 週 脳転移が直接の死因となる頻度は照射群で有意に少なかった ($p = .003$) 。 術後照射群 6/43 (14%)、経過観察群 17/39 (44%) Karnofsky score が 70%以上を維持できた期間に関しては有意差を認めなかった ($p = .61$) 。 中央値 術後照射群 37 週、経過観察群 35 週</p>
	<p>結論</p>	<p>悪性腫瘍の単発性脳転移に対する治療として、脳転移切除後に放射線治療を行うと、経過観察のみよりも脳内再発が少なく、脳転移が直接の死因となることが少なくなる。 生存期間の延長は証明されなかった。</p>
	<p>備考</p>	
<p>レビューワーコメント</p>	<p>レビューワー氏名</p>	<p>鹿間直人</p>
	<p>レビューワーコメント</p>	<p>脳転移に関するランダム化比較試験。多くは肺癌や乳癌が多く、悪性黒色腫は 1 例のみ。 レベル II</p>